

# 2024（令和6）年度 佐久大学看護学部 卒業生・就職先等アンケート実施報告

## I. 実施要領

### 1. 目的

本学の教育カリキュラムの長期的効果を評価し、今後の教育活動等の改善につなげることを目的とし、卒業生及び卒業生が就職している施設の管理者（看護部長ないしは看護部教育担当副部長）から教育成果についてフィードバックを得る。

### 2. 調査主宰

佐久大学看護学部自己点検評価部会（学部長、学科長、教務委員長、学生委員長）

### 3. 調査対象

#### 1) 佐久大学看護学部卒業生

(1) 就職先：卒業時就職先で、過去5年の累計人数上位10位までの施設（計11施設）

(2) 卒業時期と人数：上記(1)の施設に就職した卒業生のうち、卒業後1年目（2023年度卒）53名、同3年目（2021年度卒）45名、同5年目（2019年度卒）44名で、合計142名

#### 2) 卒業生の就職先の看護管理者

上記の本学部卒業生(1)の就職先11施設の看護管理者11名

### 4. 調査方法

#### 1) アンケート調査

Google フォームを用いた、無記名自記式のアンケート調査。卒業生及び看護管理者への依頼文書内に QR コードとパスワードを記載し、各自の携帯端末を用いて回答する。回答に要する時間は10分間程度。

#### 2) 調査の依頼方法

11施設の看護部宛てにアンケート協力依頼を行い、当該施設に就職した臨床1, 3, 5年目に該当する卒業生の名簿（卒業時点の把握内容）と、看護管理者及び卒業生人数分の依頼文書を郵送した。看護部担当者に、該当する卒業生への文書配付を依頼した。

#### 3) 調査時期

協力依頼：2024（令和6）年7月29日（月）依頼文書発送

データ収集期間：2024（令和6）年8月1日（木）～8月30日（金）

## 5. 調査内容

### 1) 卒業生への調査内容

- (1) フェイスシート：臨床何年目、所属部署の看護領域
- (2) 大学での学び 学修方法が身についたか・役に立っているか  
コミュニケーション力が身についたか・役に立っているか  
その他に学生時代の経験で、卒業後に役立ったこと  
学生生活の満足度
- (3) 佐久大学へのメッセージ

### 2) 看護管理者への調査内容

佐久大学卒業生についての全体的な印象、お気づきの点、佐久大学に期待すること

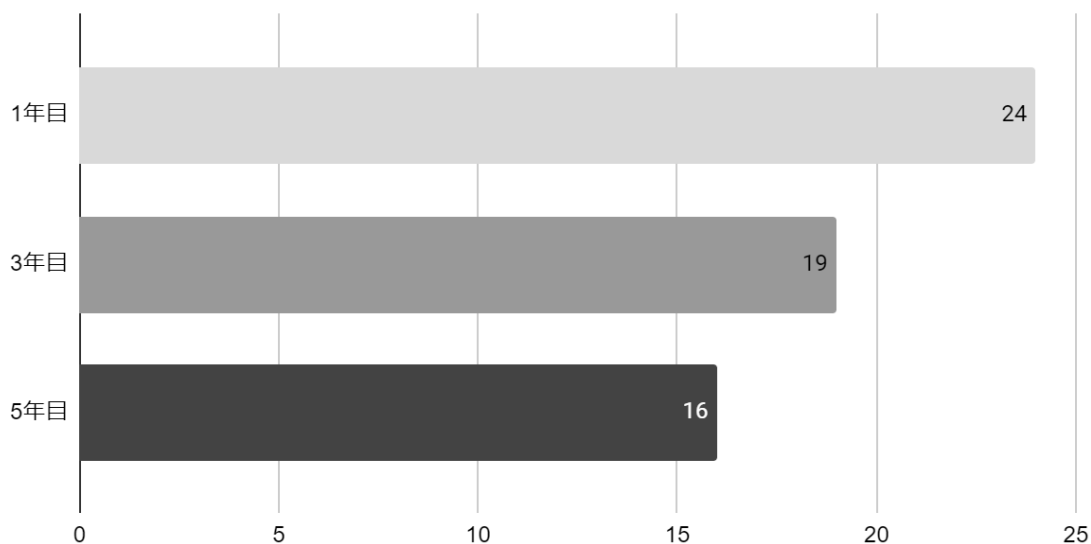
## II. 調査結果

卒業生への配付は計 142 名で、59 名（41.5%）から回答が得られた。

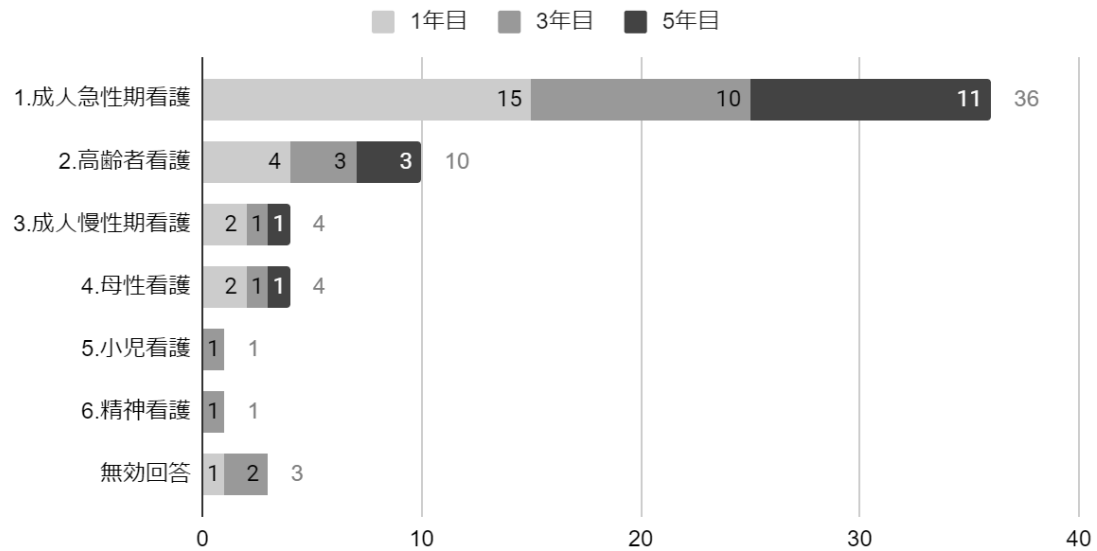
看護管理者への配付は計 11 名で、9 名（81.8%）から回答が得られた。

### 1. 卒業生の結果

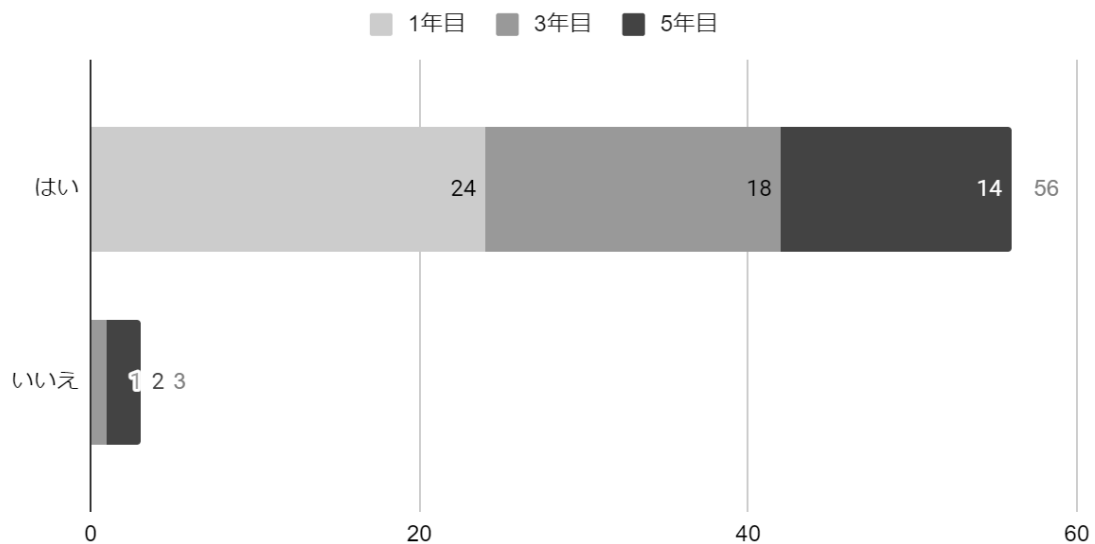
1. あなたの現状について教えてください。佐久大学を卒業後、臨床何年目ですか？



2. あなたの所属部署で行われる看護で、最も多いものを一つお選びください。

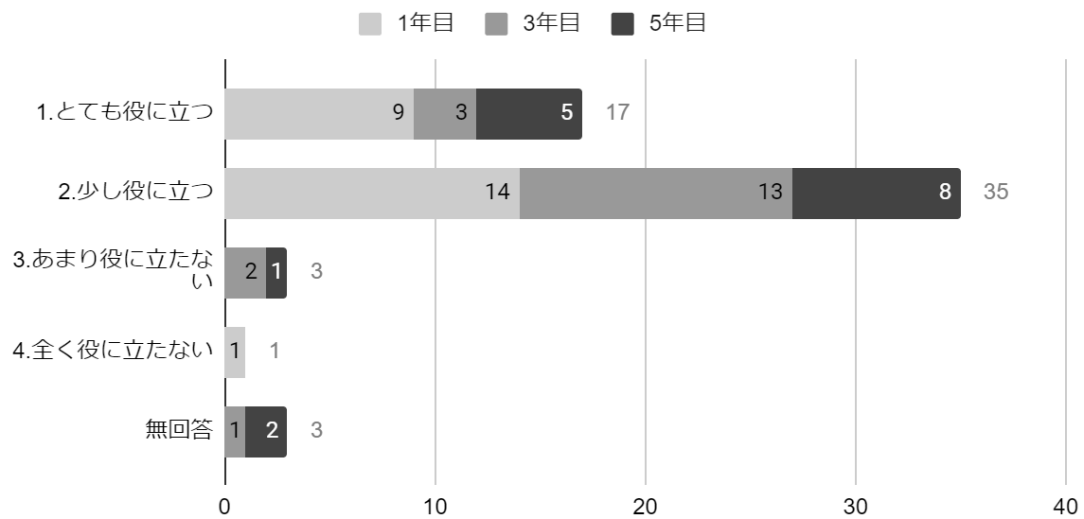


3-1. 大学での学びに関して教えてください。学生時代に学修方法が身についたと思いますか？

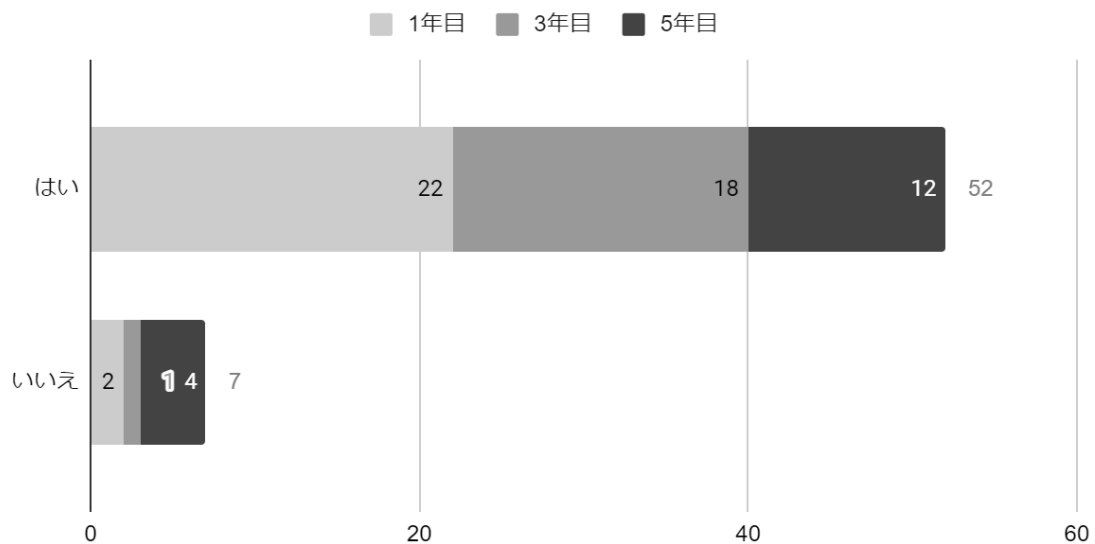


### 3-2.

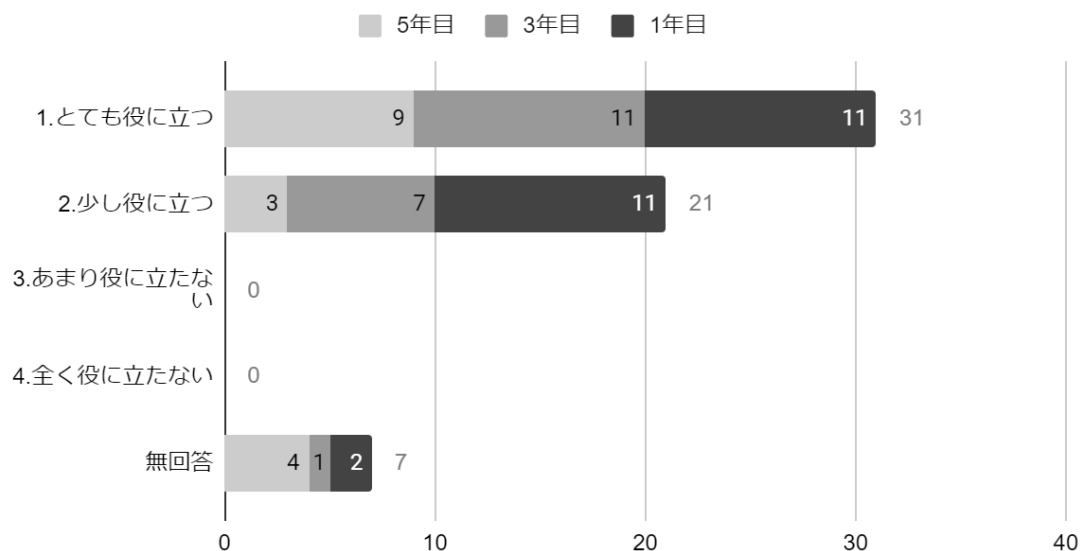
3-1で「はい」の方にお尋ねします。その学修方法は、現在、役に立っていますか？



### 4-1. 学生時代にコミュニケーション力が身についたと思いますか？



4-2. 4-1で「はい」の方にお尋ねします。そのコミュニケーション力は、現在、役に立っていますか？



5. その他、学生時代の経験で、卒業後に役立ったことを教えてください。（自由記述）

【卒業後1年目】

- 大学での学びや経験全て、今に役立っていると感じています。
- 基礎看護の演習、関連図による患者理解
- 清潔ケアなどの看護技術、「報連相」や積極性の大切さ
- 実習経験
- 実習での患者さんとの関わり。新型コロナウイルスが流行している中でも、少しでも実習を経験することができて、実際の患者さんに関わることが今に活きていると感じる。
- 成人看護学実習(急性期)の実習先で学んだことが、実際に整形外科で働いてから活かすことができた。腓骨神経麻痺、深部静脈血栓症、全身麻酔の合併症、血糖測定のスケーリングの見方など。
- 文献検討などを学んだおかげで、今の職場での看護研究に役立っています。
- SPICE（学生広報チーム）で人前に出る経験

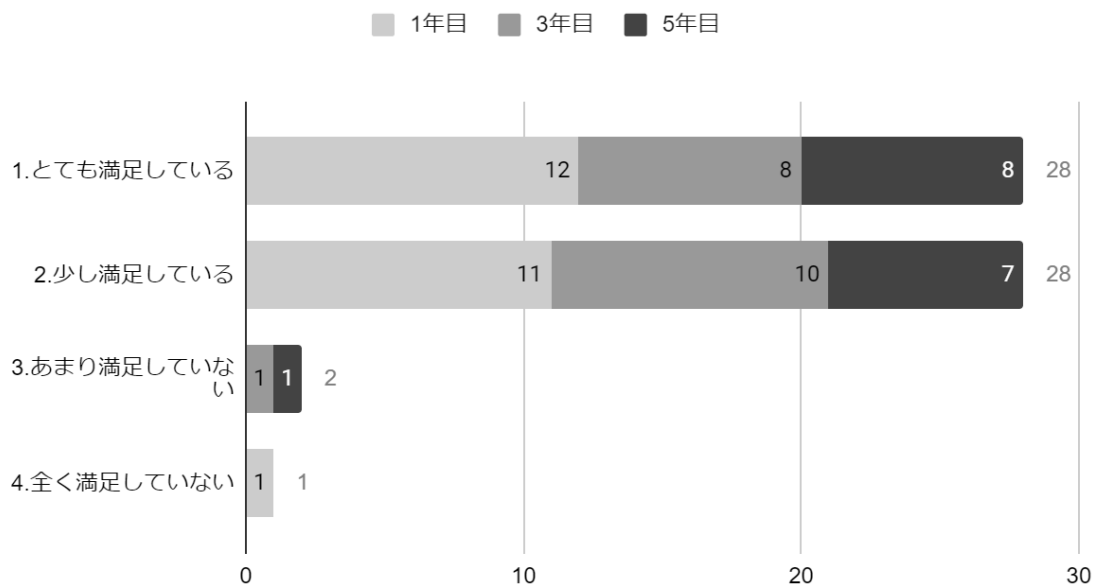
### 【3年目】

- グループワークやチューター制度を用いた他者との交流が多かったため、迷ったときに誰かに相談することが身についた。
- 分からないことや悩んでいることをそのままにせず、先輩や上司に相談することで、問題が早く解決することが多くある。
- レポート作成が当時はたくさんあり大変だと思っていたが、文章を書く力が身につく、職場で看護サマリーなどを記載する際に役に立っていると感じている。
- 基礎看護技術の演習、清潔不潔の区別、情報収集やアセスメントについてなど幅広く学ばせていただきました。ありがとうございました。
- 急性期実習でのアセスメント
- 保健師課程で退院後のサービスについて学んだことが、退院調整に生かされている
- 心電図検定を大学2年生の時に独学で勉強し、受験しましたが、新卒で配属された部署が循環器病棟だったため、非常に役立ちました。
- 実習で自分の思いが上手く伝えられない患者(パーキンソン病患者)に対し諦めずに気持ちを聞き取ることが大事と学びました。実際に働く中でも呂律難や認知症で気持ちを汲み取りにくい患者はいますが実習での患者との関わり方の経験を思い出しながら日々患者と関わるようにしています。
- 忍耐力
- アルバイトでのコミュニケーション能力。

### 【5年目】

- アセスメント力:様々な情報を電子カルテ上、本人、ご家族から収集し統合する力がついたなと思います。実習中の記録は大変でしたがアセスメント力の基礎を作ってくれたと思います。
- コロナ禍で実習ができてない後輩を見ると、社会経験ができ、上下関係や言葉遣い、患者との関わりなどが学べる実習は、やるとやらないだとかなり違ってくるなと感じます。見たことがある、関わったことがあるってだけで、教える側もとても助かります。
- 実習での患者さんとの関わり体験
- 患者さんとの関わり方。
- 佐久に住んだこと（患者さんで佐久や小諸の方がいるとちょっとした話題になる）
- ひとり暮らしの生活力
- 友人関係

## 6. 今、学生時代を振り返ると、学生生活の満足度はいかがですか。



## 7. 最後に、佐久大学へのメッセージをお願いします。(自由記述)

### 【卒業後1年目】

- 佐久大学での一つひとつの学びが国家試験だけではなく、実際に現場で活かされていると思います。学生生活を楽しみつつ、勉強も頑張ってください！
- 大学で学んだ基礎知識の大切さを実感しながら業務しています。ありがとうございます。
- 大学生活はコロナの影響を受け続けた4年間でしたが、学内でも臨地でも多くのことを学び、それらが今臨床で活かすことができ嬉しく思います。ありがとうございました。
- 当時の辛すぎた実習を乗り越えた経験から、今がどんなに忙しく、帰れない状況が続いたとしても、あの時と比べれば自分を励ませる経験になっていて、今にとってもいきていると感じます。約1年半前は、たくさんの学びあるご指導をありがとうございました。
- 大学生活はテストや実習、国試の勉強など大変なことがたくさんありますが、友達と支え合いながら、乗り越えてください。
- 大変なことも多いとは思いますが、大学時代にしかできないことを全力で取り組んでください！応援しています。
- 就活に国家試験勉強頑張ってください！
- お世話になりました。
- ありがとうございました。

### 【3年目】

- 学生の意見を否定することなく、自由に学べる環境を与えて下さったことで自分で考えて実践する力を修得できたと思います。私たちに寄り添った指導をしてくださり、ありがとうございました。これからも頑張っていきます。
- 学生時代での学びは、自分自身の看護の基礎をつくってくれて、今でもモチベーションになっています。友人や先生に恵まれ、有意義な学生生活でした。本当にありがとうございました。
- 卒業から3年経ち、実際に臨床に出てみないと分からなかったことも多いですが、大学での経験は貴重なものであったと感じています。また、同部署で大学の縦の繋がりもあり心強いです。
- 学生の時にしかできないことがたくさんあります。頑張ってください

### 【5年目】

- 学生時代の学修は必ず臨床に出てから武器になります。教員にやらされてるという感覚ではなく、自ら学習したい知識を深めたいという自主性を大切に頑張ってください。
- これからも学生第一にサポートして行って貰いたいです
- 佐久大学で学べてよかったです。後輩がたくさん当院に来てくれることを願っています。
- 大学で実習を一緒に乗り越えた同期たちは、就職後とても心の頼りになる存在で、今でも日々を乗り越える支えになっています。看護の学びも大学では得られましたが、それ以上に良き同期と出会えたことが自分にとっては大きいです。
- 学生時代と働く看護は異なりますが、学生時代の患者さんは印象深く自分の原点になりました。頑張ってください。
- 卒業後、それぞれの病院で働くにあたって不安なことやどんな病院なのか知りたいこともたくさんあると思います。メールや直接質問できる機会などあれば、ぜひ参加したいと思います。
- お元気ででしょうか。とても懐かしく感じました。卒業してからもう5年が経ったと思うと鳥肌が立ちます。卒業後、佐久大学もキャンパスや学部が増えて羨ましく思っていました。久々に足を運びたいです。臨床にたち、毎日忙しい日々です。日勤は定時17時ですが、21時に終わることもあります。こんなところやめてやるといながらもやりがいを感じている部分もあります。全部ひっくるめて看護師になってよかったと思っています。大学時代教えていただいた先生方に感謝申し上げます。暑い日が続いていますが、お身体に気をつけてお過ごしください。
- 沢山遊んで、食べて、学生のうちに楽しめるだけ楽しんで下さい。学生が終わったら、看護師として楽しみましょう



## 2. 看護管理職の結果

設問：佐久大学卒業生に関しての全体的な印象、お気づきの点、佐久大学に期待すること等、忌憚のないご意見をお聞かせください。（自由記述）

- 接遇、メンタル面で、個人差が激しい印象がありますが、頑張っている子は、他の学校の卒業生より早くに自立できる人も多く、頼りになります。しっかり教育されていると感じます。接遇面は、就職して、数週間で、容姿が派手になる子、患者さんへの言葉遣いの指導が必要になる子が居ます。面談で指導を行なっていますが、ベースを変えるのに、根気が要ります。メンタルが弱い子は、忙しい現場に適応できず、1年待たずに退職した子もいました。もっと楽に働きたいとのことでした。確かに当院は忙しいですね。
- 毎年、奨学生の学生が複数名就職して頂いています。ただ、対象期間が終わると自宅近くに戻る方がいるため、これからの成長を期待して育てているつもりですが、大変残念です。しかし、実習を機会に就職を決める方は自分の目指すことがあるため、確実に成長しています。また、看護師採用のため保健師資格が活用できない方も別の医療機関に移る方もおり、採用の難しさを感じています。より長く勤務継続できるように魅力ある職場にしなければと思います。
- 全体として、真面目に看護にあたっただけでいます。研修時の報告書を読むと論理的な思考が身に付いていると感じます。要望としては、この地域の看護の質の向上のために、講演や研修の企画をしていただきたいです。また、卒後の看護師が気軽に自分の困っていることやキャリアについてなど相談できるような窓口が大学にあると良いと思います。佐久大学の卒業生だけではなく、メンタル的な問題を抱える方は多く、病院としても全力でサポートいたしますが、いろいろなところで、サポートできるとなお良いと思うからです。
- 佐久大学さんだけの課題ではないと思いますが、臨床にむかない方が見受けられます。在学中どんな感じだったのかなと思うことがあります。全体的には、優しく優秀な方が多いと感じています。
- 毎年、新人看護師が就職されています。新人看護師支援をする中で、学生の頃の学習支援など個別性を重視されたなどの情報の共有がされるとありがたいです。
- 大学卒業の生徒さんは、知識もあり学習方法も自分なりのスタイルを持っているので、研修会等は積極的に参加しています。レポートも良く書けていて考え方もしっかりしている印象があります。稀に、コミュニケーションや人間関係で馴染めない方もいます。おそらく実習などでつまづくことも多かったと思います。そのような生徒さんの情報がいただけると、私どもも関わり方、指導方法も検討ができると思います。貴重な看護師さんたちなので、途中で離職しないように育てたいと考えています。毎年就職していただきありがとうございます。

- 若干名ですが、奨学金を返済する目的で働いている方がいるように感じます。実際に奨学金を返済後に退職されてしまう方がいます。自身の希望していない事業所であっても看護のやりがいを感じて頂き、長く働いてもらう為にはどのような支援が必要なのか悩んでいます。
- 新人看護師の傾向として、大学で学んだことと、臨床での経験が統合出来ずに苦勞されているのでは？と思えることがあります。本人たちの、先入観や価値観が先行してしまい現場に不適応状態なるケースが散見されているように思います。これは、貴学に限った事ではなく全体的に言える事なのですが、病院としても『理想と現実のギャップ』に対応すべく人材育成に対して資源の余裕を持たせて対応している次第に御座います。しかし、人材不足が深刻で危機的な現状において先輩看護師の負担を鑑みると、余裕を持たせた人材育成の実践については『得策』とは言い切れないのが現状にあります。新人看護師の知識等については申し分ありません。その為、看護師としての人格形成に関する教育内容の更なる強化に繋がる取り組みを検討して頂ければ非常に助かると思います。
- 全体的には、おおらかな看護師が多い印象です。地道に努力する姿勢も見られます。当院は退院支援にチカラを入れているので、佐久地域の特徴を活かした退院支援について、卒業生から学べたら良いと思いました。

### 3. まとめ、教育活動改善への課題

#### 1) 全体概況

昨年度と比べ、卒業生（37.5→41.5%）、管理者（33.3→81.8%）ともに回収率が上がった。臨床1年目では、配布53名・回収24名であることから、当該卒業生88名のうち27.3%の方から回答が得られたことになる。

多くの方から協力を得られたことを、佐久大学への貴重なフィードバックと受け止め、今後の教育活動改善へつなげる努力を続ける。また、卒業生と大学とのつながりや、就職先施設と大学とのつながりを構築するきっかけとする。

#### 2) 卒業生への調査結果から

- 卒業生への調査結果では、学生時代に学修方法が身についた（95.0%）、学生時代にコミュニケーション力が身についた（88.1%）、双方とも役に立つという評価で、学生時代への満足度も高い結果であった。教育内容の継続と一層の充実に努める。
- 卒業後に役に立ったこととして、具体的な授業内容に加え、人とのかかわる経験（実習、グループワーク、チューター活動、広報活動、友人など）、人に相談する経験（相談することで早く解決する経験）、文章を書く経験（実習記録、レポート等）等が挙げられた。人に揉まれ、文章を作り出すことは在学生には容易ではなく、苦勞も多い。しかし、それらが将来につながる貴重な経験となることを伝え、在学生の学びの動機づけにつなげられると考える。

- ・佐久大学へのメッセージのうち、「学生の意見を否定することなく自由に学べる環境が、自分で考え実践する力の修得につながる」という内容は、優れた教育環境という評価を得られたと受け止めることができ、この環境の維持継続に努める必要がある。また、「学生時代の学修は臨床での自分の武器になるから、教員にやらされているという感覚ではなく、自ら学習したい・知識を深めたいという自主性を大切にして頑張してほしい」は、先輩から後輩への貴重なメッセージとして、在学生への教育活動に活用できる。

### 3) 管理者への調査結果から

- ・卒業生のキャリアなどについて相談できる窓口を希望する意見があった。  
⇒今年度「ホームカミングディ」を開く予定である。固定した窓口を作るのは難しいが、「ホームカミングディ」などを利用してもらえると良い。
- ・地域の看護の質を上げるための講演や研修の企画を開いてほしいという希望が2年続けてあった。  
⇒現在予定されている公開講座や他の講演などは、市民向け広報に重点を置いているため、卒業生の就職先や実習先の病院への周知も広報に依頼し、広く周知していく。関心のあるものに参加していただけるように勧める。
- ・学生が就職してから適応できないケースがある。大学生の時の情報が可能なら知らせしてほしい。  
⇒学生の特性については、学生自身が自己理解し、就職先にも相談でき、自身にあった場所を選択できる様になってほしい。卒業に向けて、学生が自律して社会に出ていけるように大学では教育できるよう努力していく。学生の個人情報伝えることは難しいが、今後さらに、病院との連携を深め、学生や卒業生の成長に向けて対応をしていく。

以上